

資料集

コロナ流行下で
起きていたこと、起きていること
(2022年4月27日時点)

2022年2月、3月超過死亡数が急増しています

メンタルケア協議会
羽藤 邦利

(資料の項目)

■人口動態統計（速報）より

出生数が急減し、死亡数が増加。少子高齢化が急加速する

■人口動態統計（概数）より

死因別で老衰、認知症、癌死の増加が始まる

■超過死亡数とコロナ死亡数

■コロナ流行下、子どもが重大な影響を被っていた

■家庭で起きていたこと

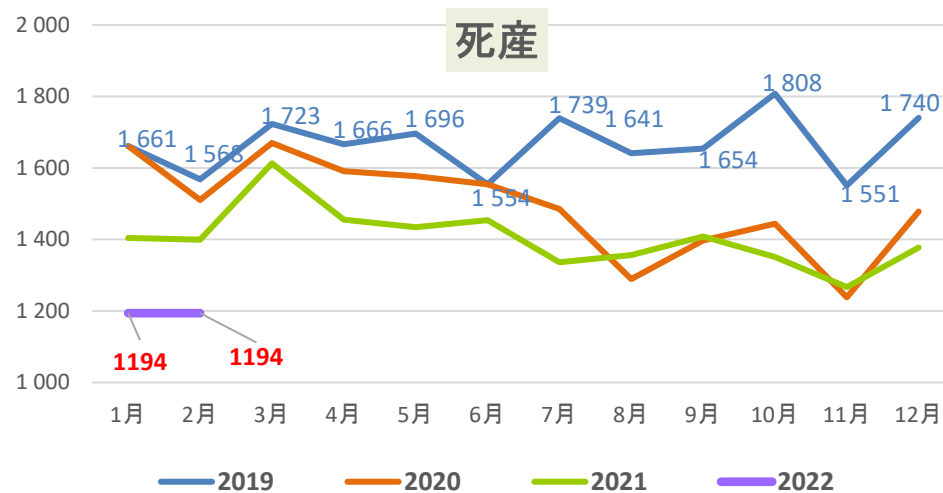
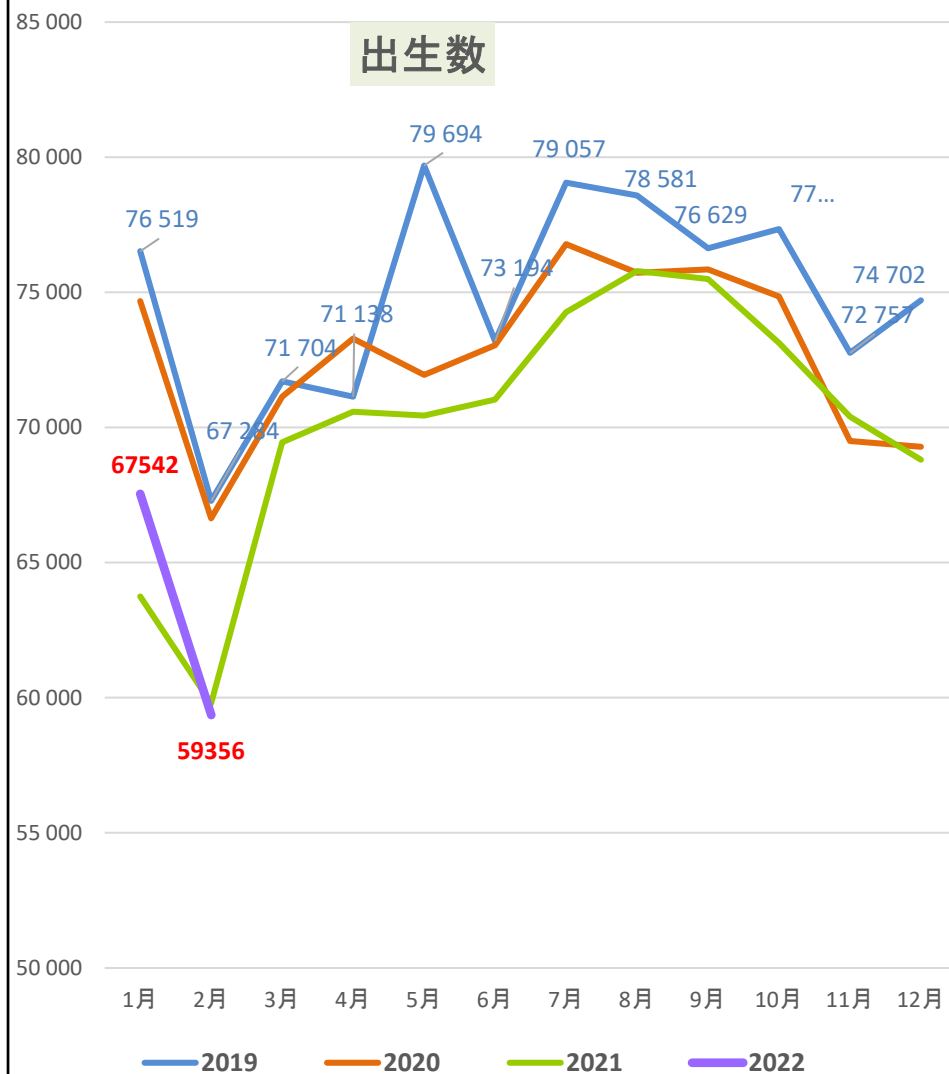
■犯罪統計

人口動態統計（速報）より

（2019年 2020年 2021年 2022年2月）

出生数、死亡数、婚姻数、離婚数の動向

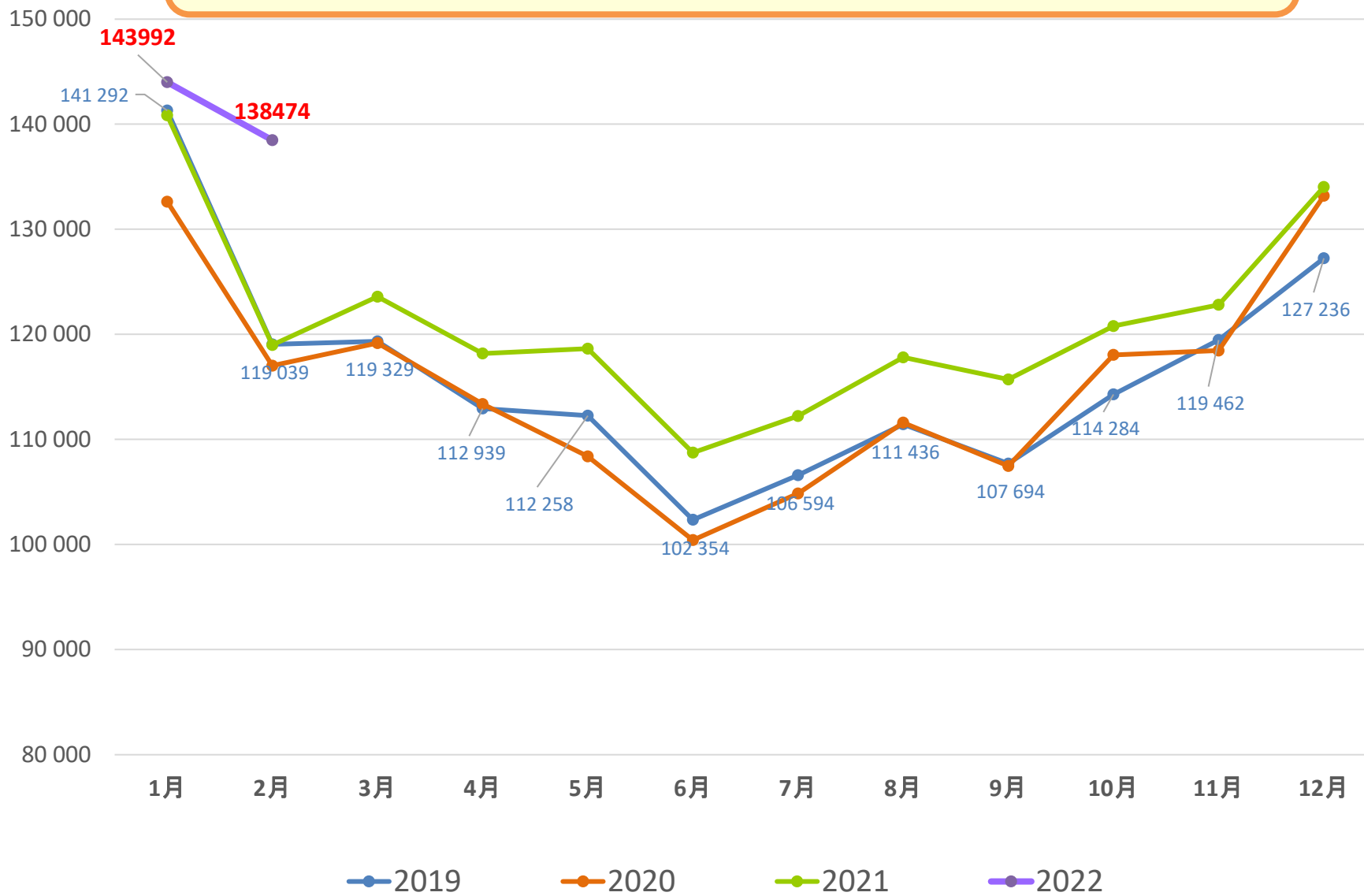
出生数が、年々減り続けている



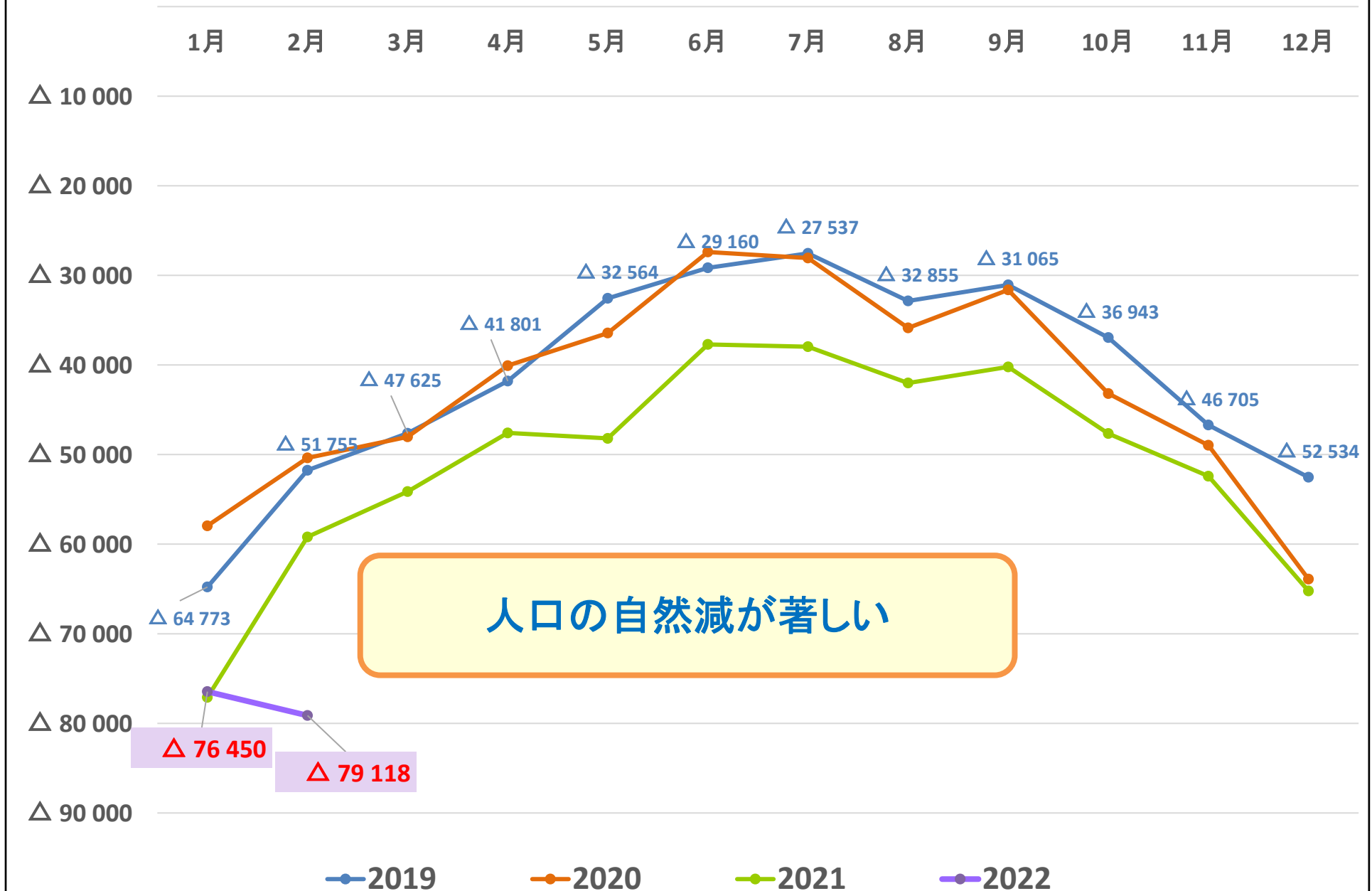
死亡

★ 死亡数が、2020年10月以降、増え続けている

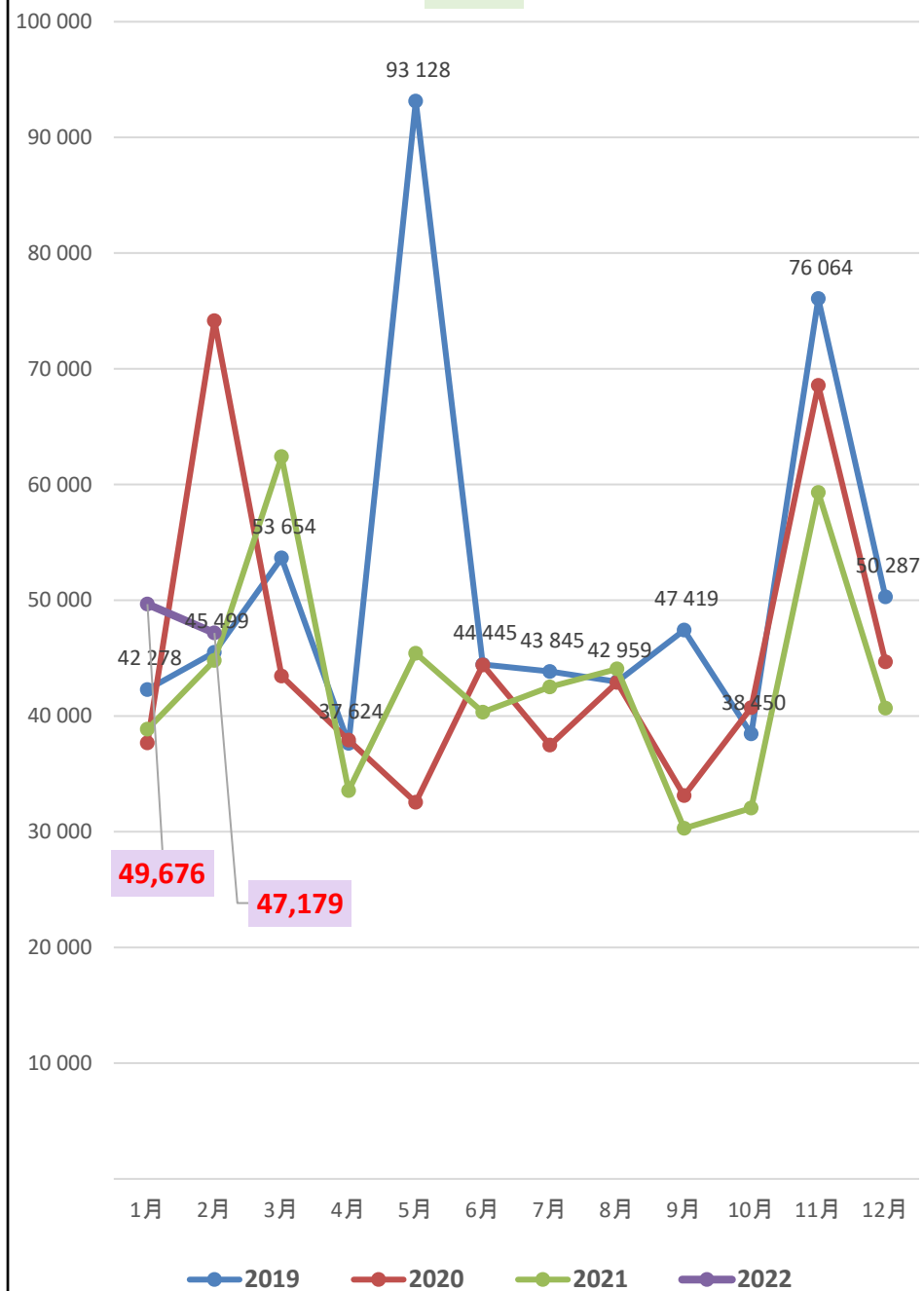
★ 2022年2月に著増！



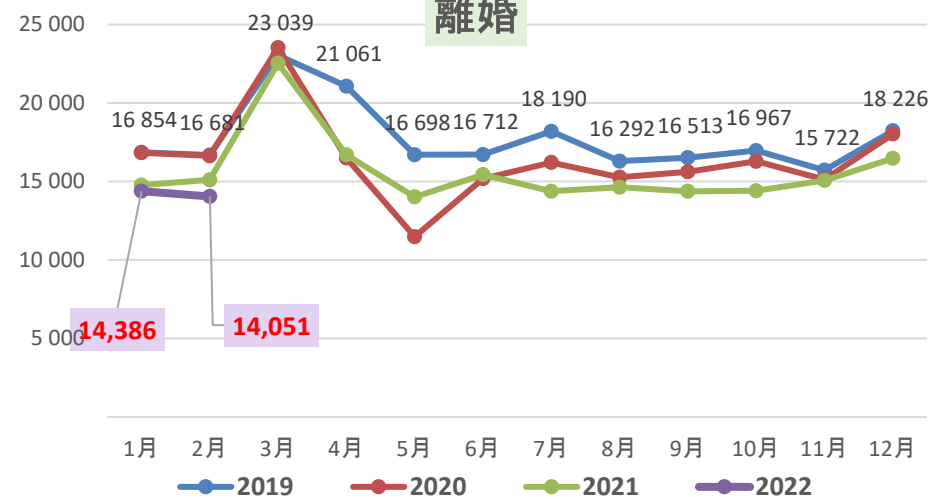
自然増減



婚姻



離婚



人口動態統計月報（速報）から判ること

- 出生数が著しく減少。死亡数が増加。今後、少子高齢化が急加速する
- 少子高齢化の急加速によって、家庭、学校、職場、街が様変わりする。社会保障制度など社会の仕組みも大幅に変えなくてはならなくなる。

人口動態統計（概数）より

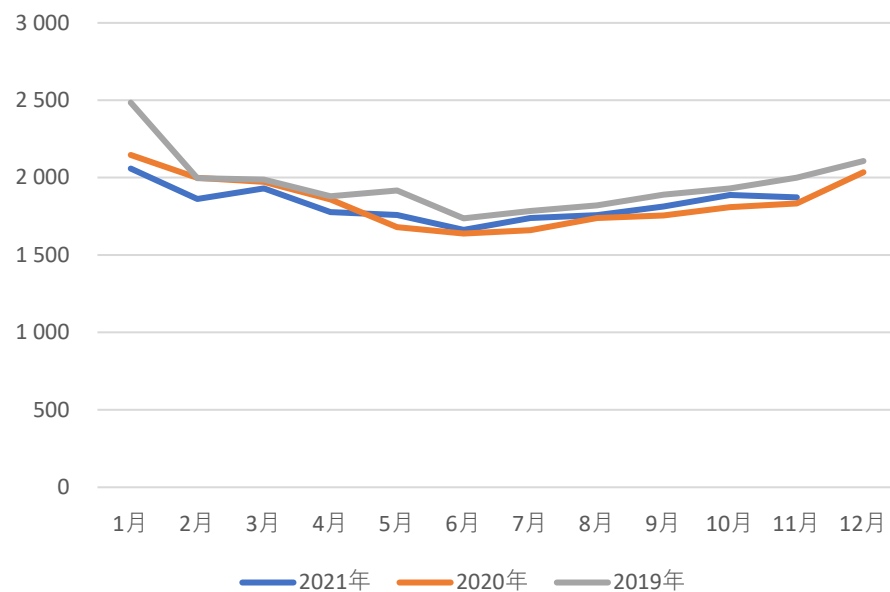
（2019年 2020年 2021年11月まで）

- 死因別死亡数
- 超過死亡数とコロナ死亡数

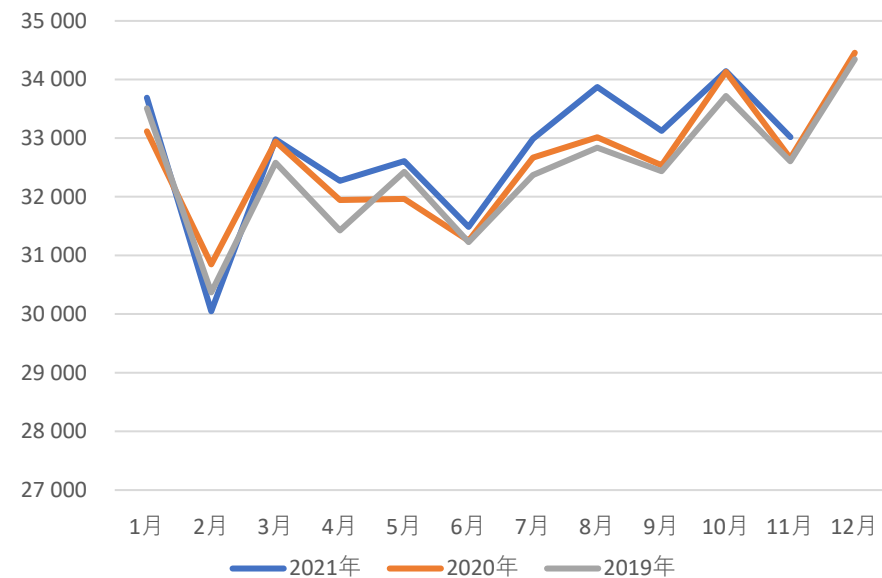
(死因別の月別死亡数の推移)

2019年 2020年 2021年11月まで

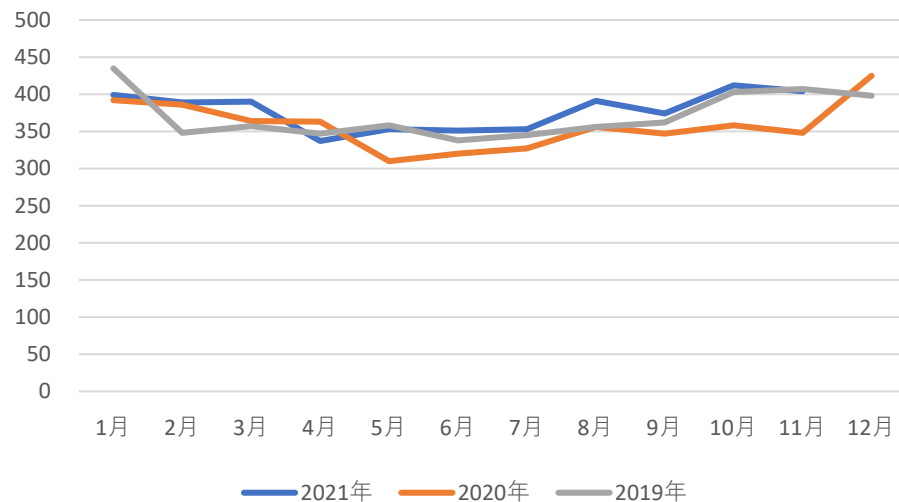
感染症及び寄生虫症



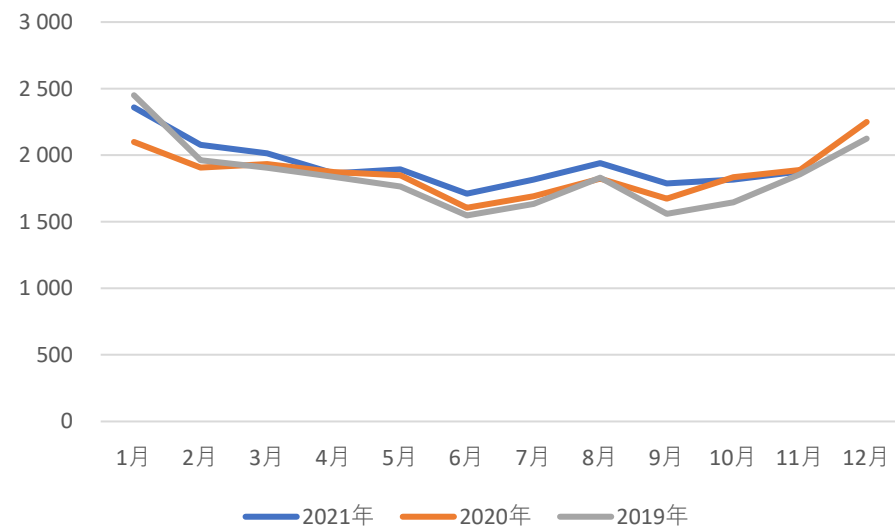
新生物<腫瘍>



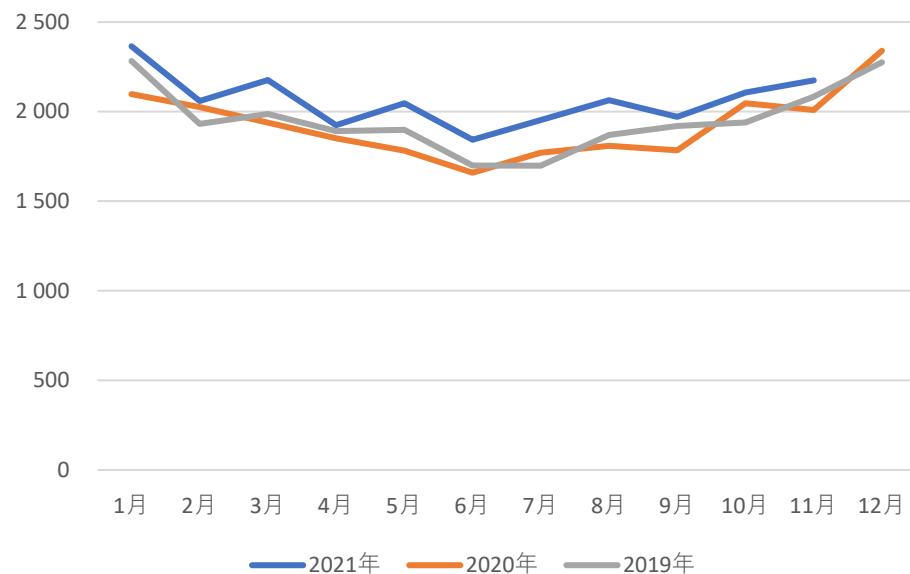
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害



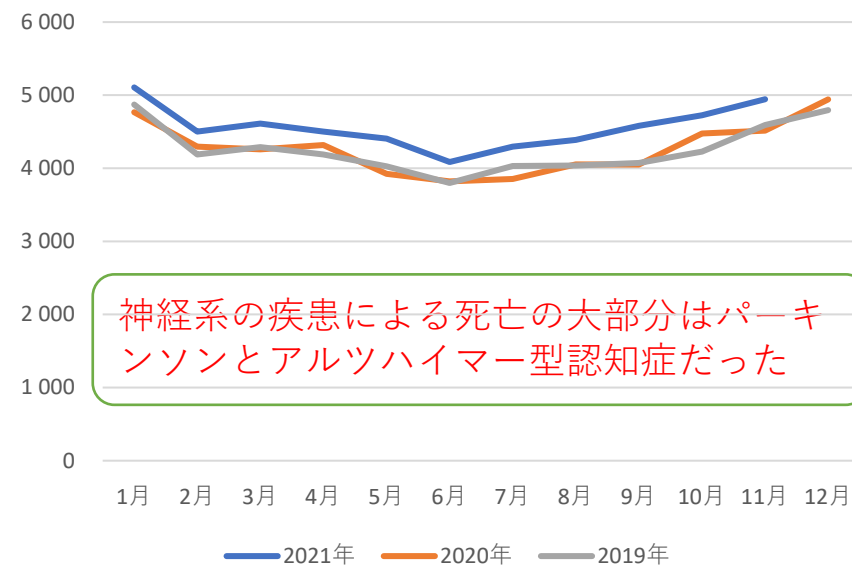
内分泌, 栄養及び代謝疾患



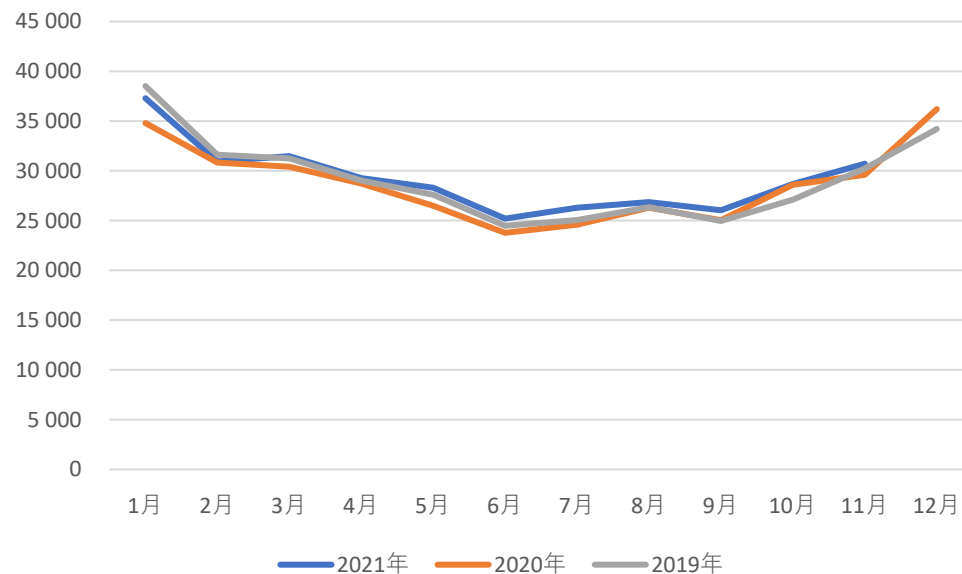
精神および行動の障害



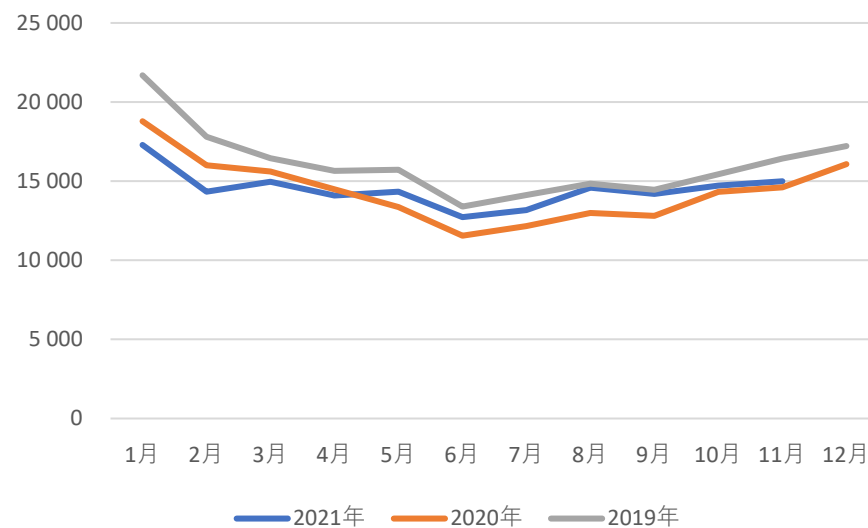
神経系の疾患



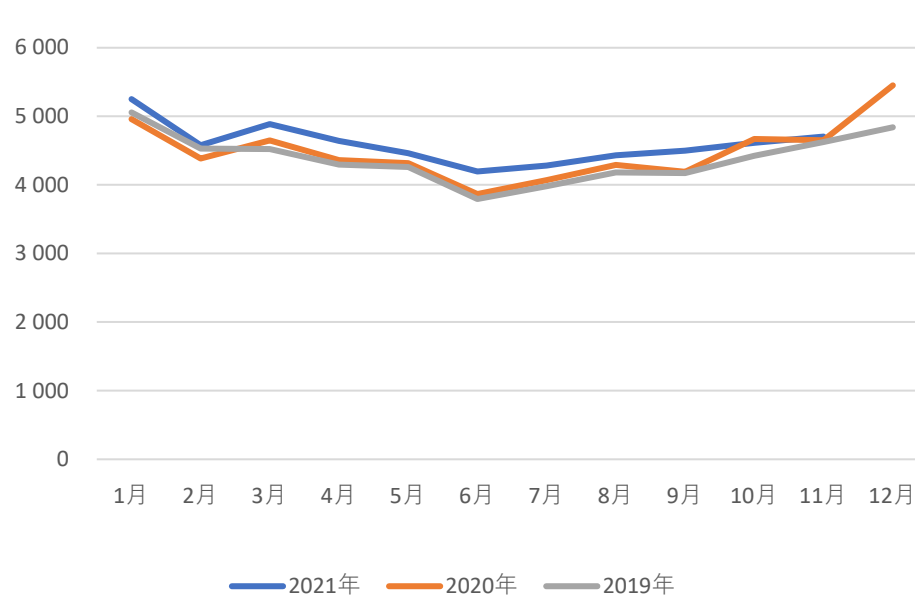
循環器系の疾患



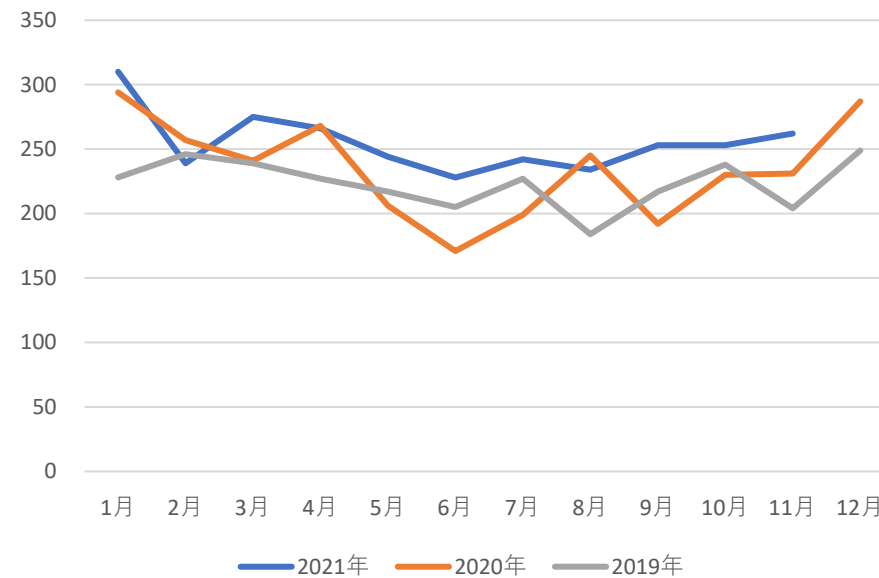
呼吸器系の疾患



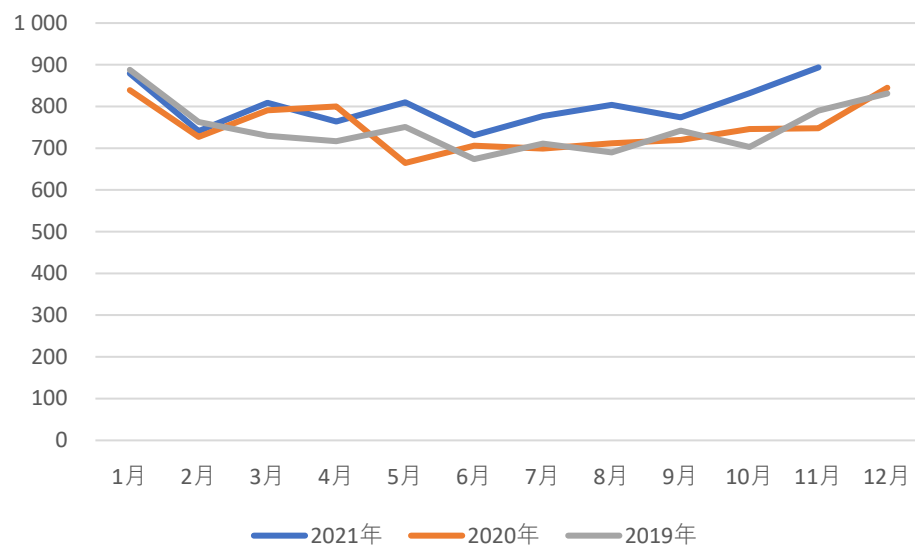
消化器系の疾患



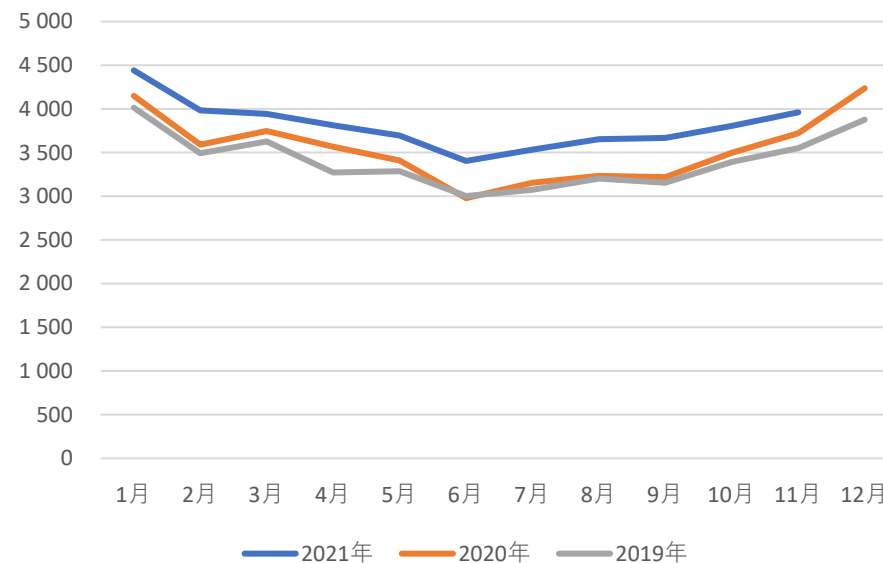
皮膚及び皮下組織の疾患



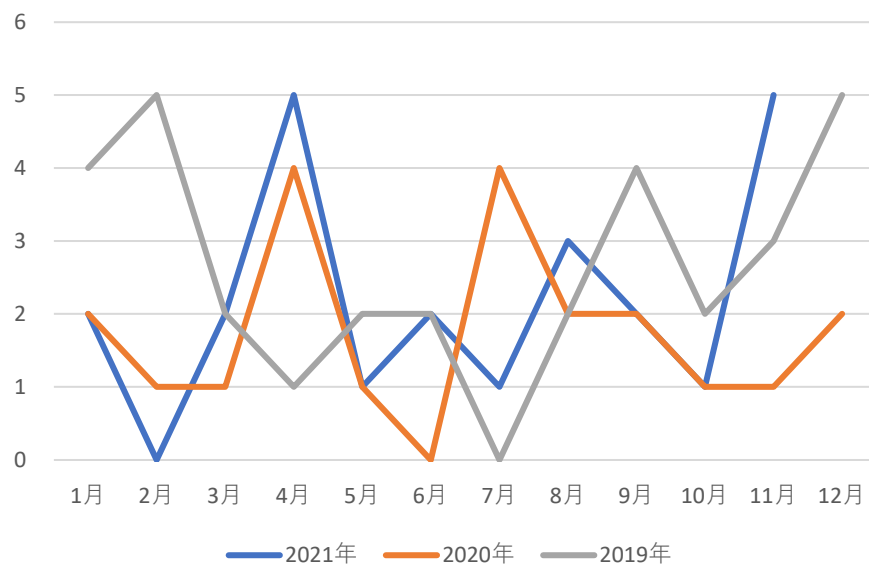
筋骨格系及び結合組織の疾患



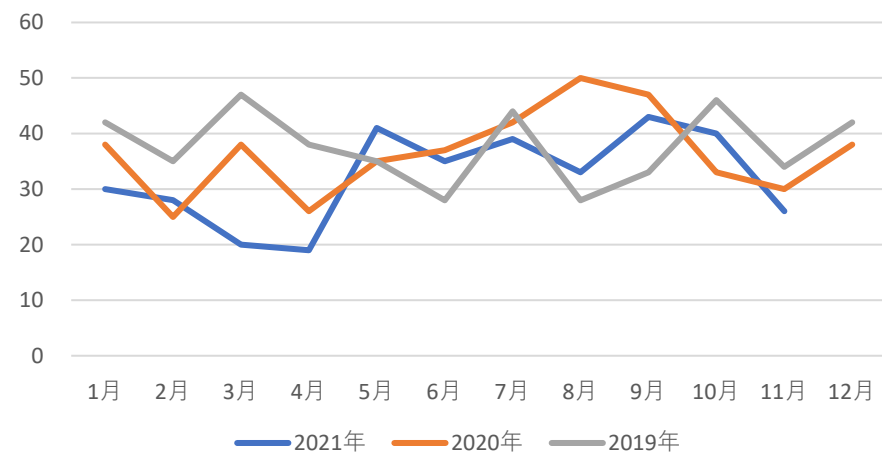
腎尿路生殖器の疾患



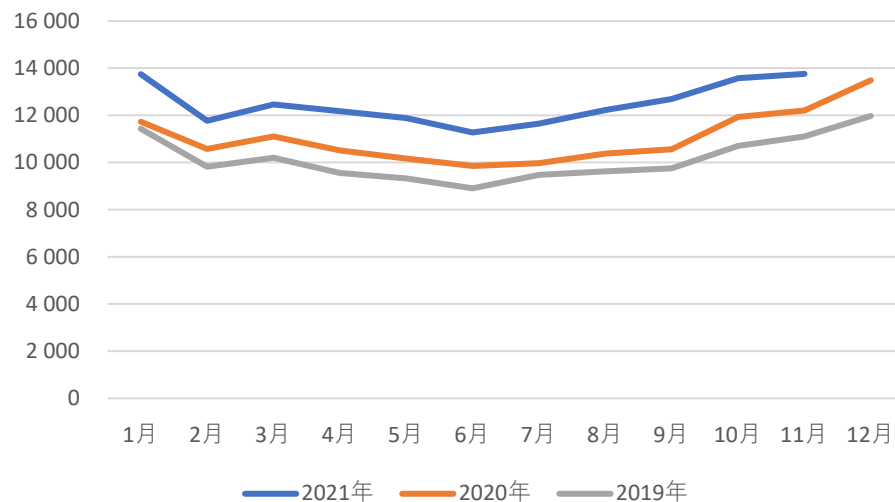
妊娠、分娩及び産じょく



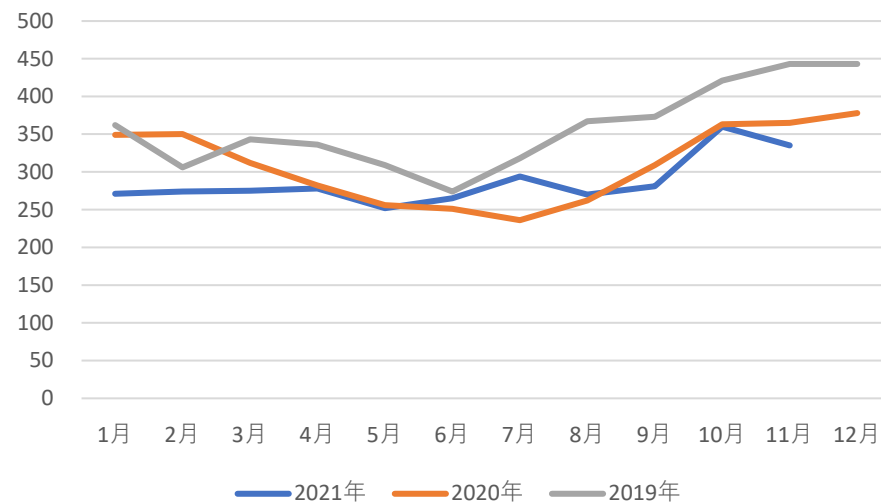
周産期に発生した病態



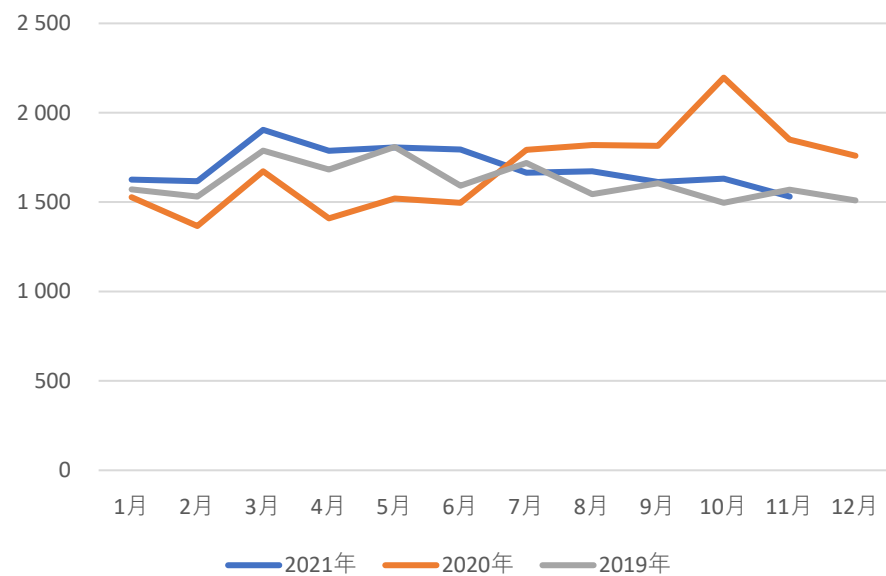
老衰



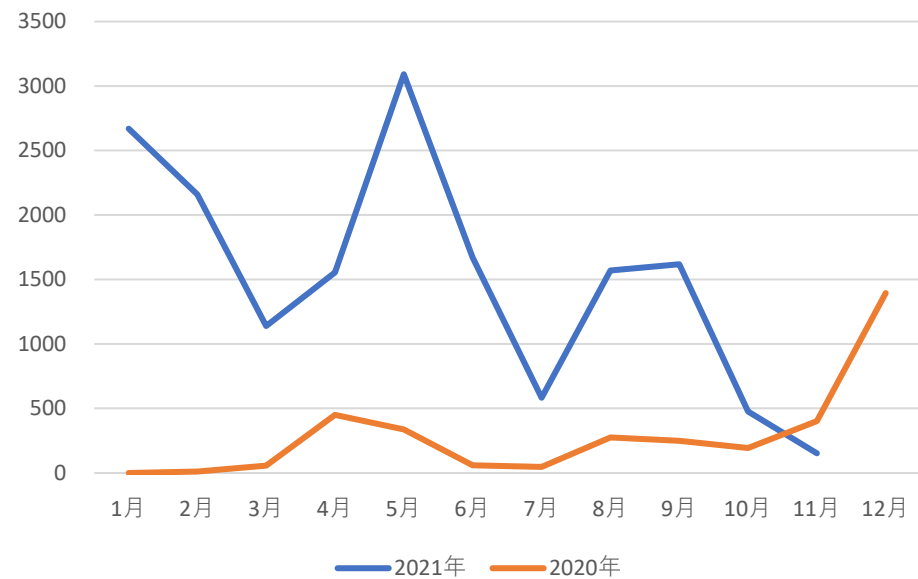
交通事故



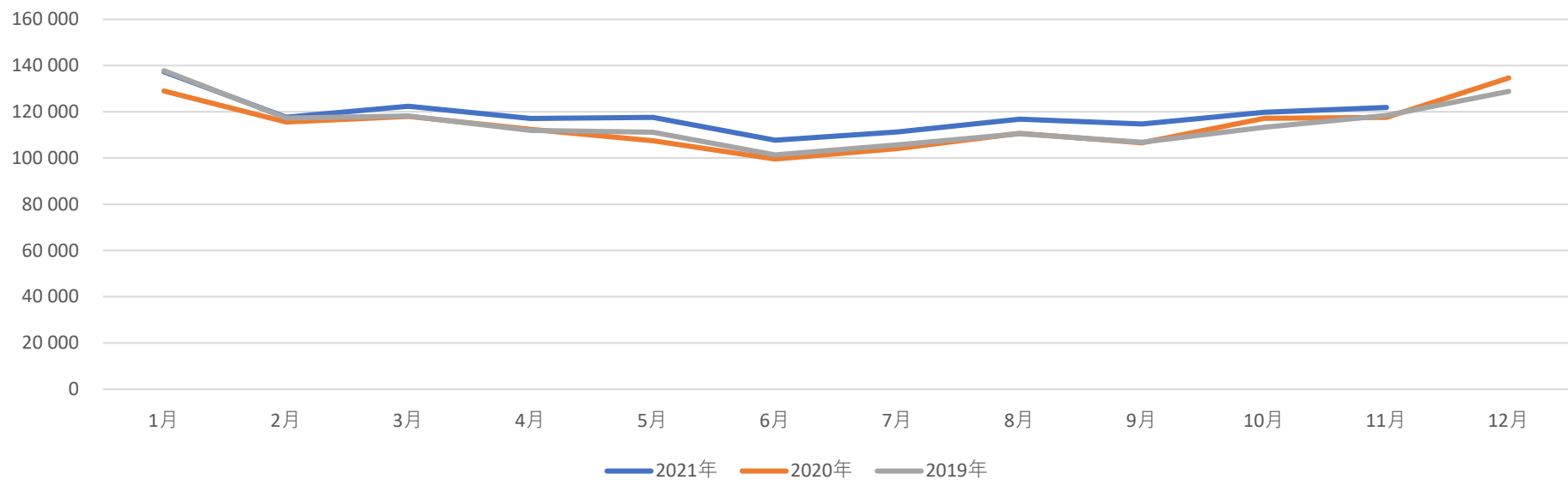
自殺



新型コロナ



総死亡数



死亡数が増えた死因、減った死因

■死亡数が増えた死因

1. 老衰
2. 神経系の疾患（殆どがアルツハイマー型認知症）
3. 精神及び行動の障害（自殺が含まれているのでは？）
4. 腎尿路生殖器の疾患
5. 筋骨格系及び結合組織の疾患、皮膚及び皮下組織の疾患

■死亡数が減った死因

1. 交通事故

■死亡数が今後増える可能性が高い死因

1. 新生物＜腫瘍＞

死因別死亡数の増減には
何が影響していたのだろう

■コロナ対策による生活の変化

■コロナ流行で通常医療が円滑に行えなかった

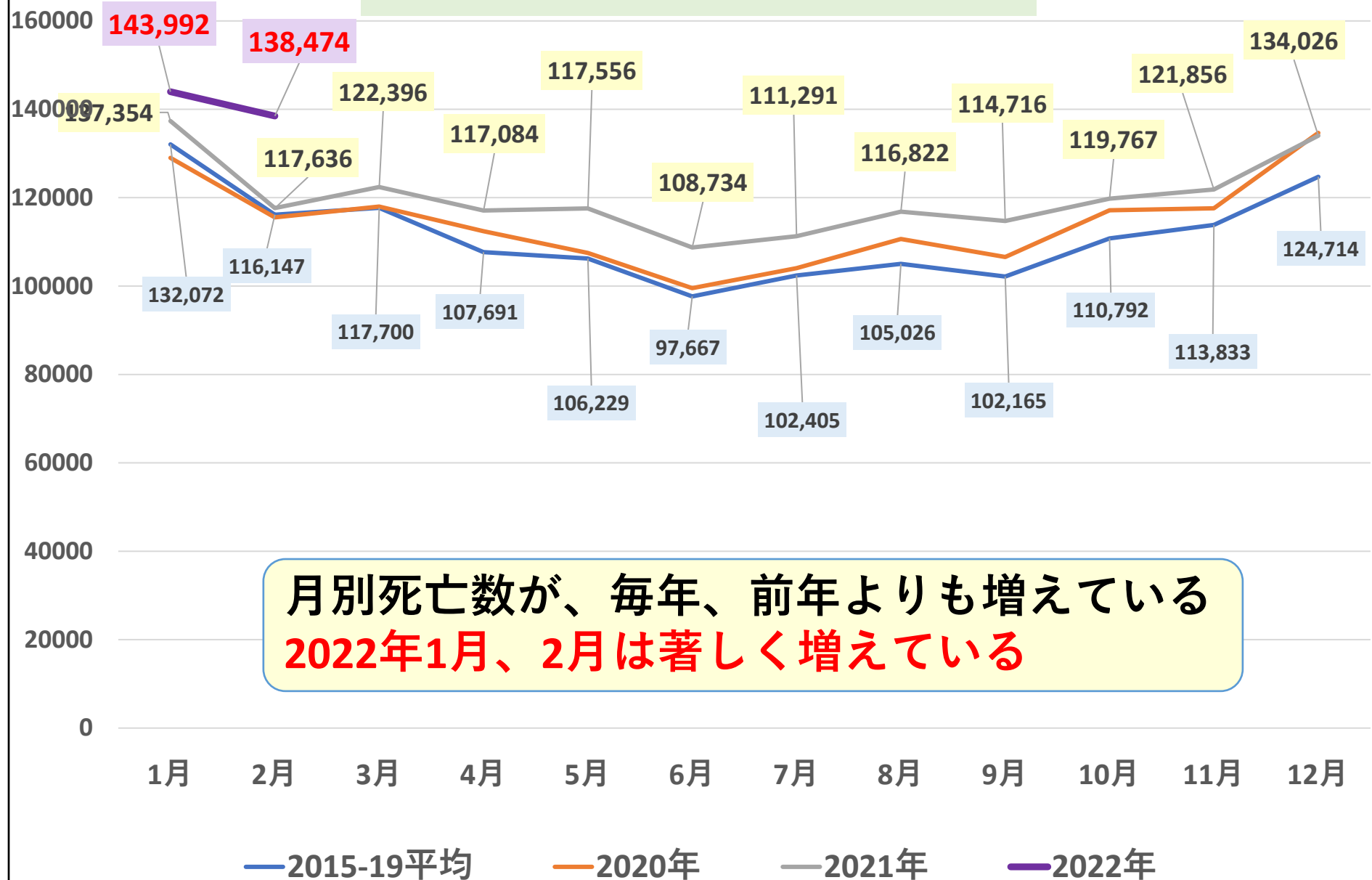
■コロナワクチン接種の影響も？

（ワクチンの中期的長期的影響は未だわかっていない）

超過死亡数とコロナ死亡

全国の月別死亡数

2015～2019の平均 2020 2021 2022

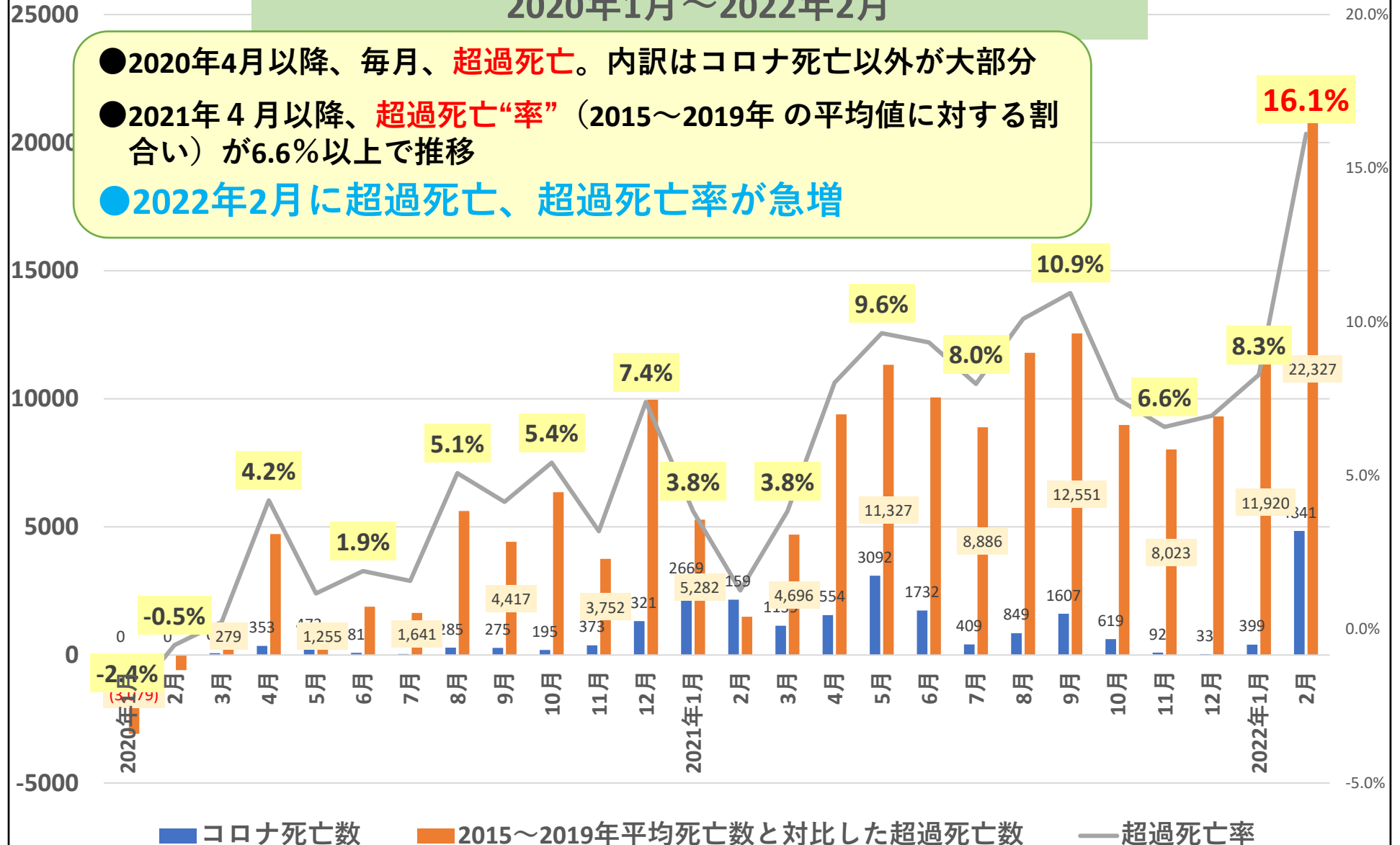


全国

コロナ死亡数 超過死亡数 超過死亡率 月別推移

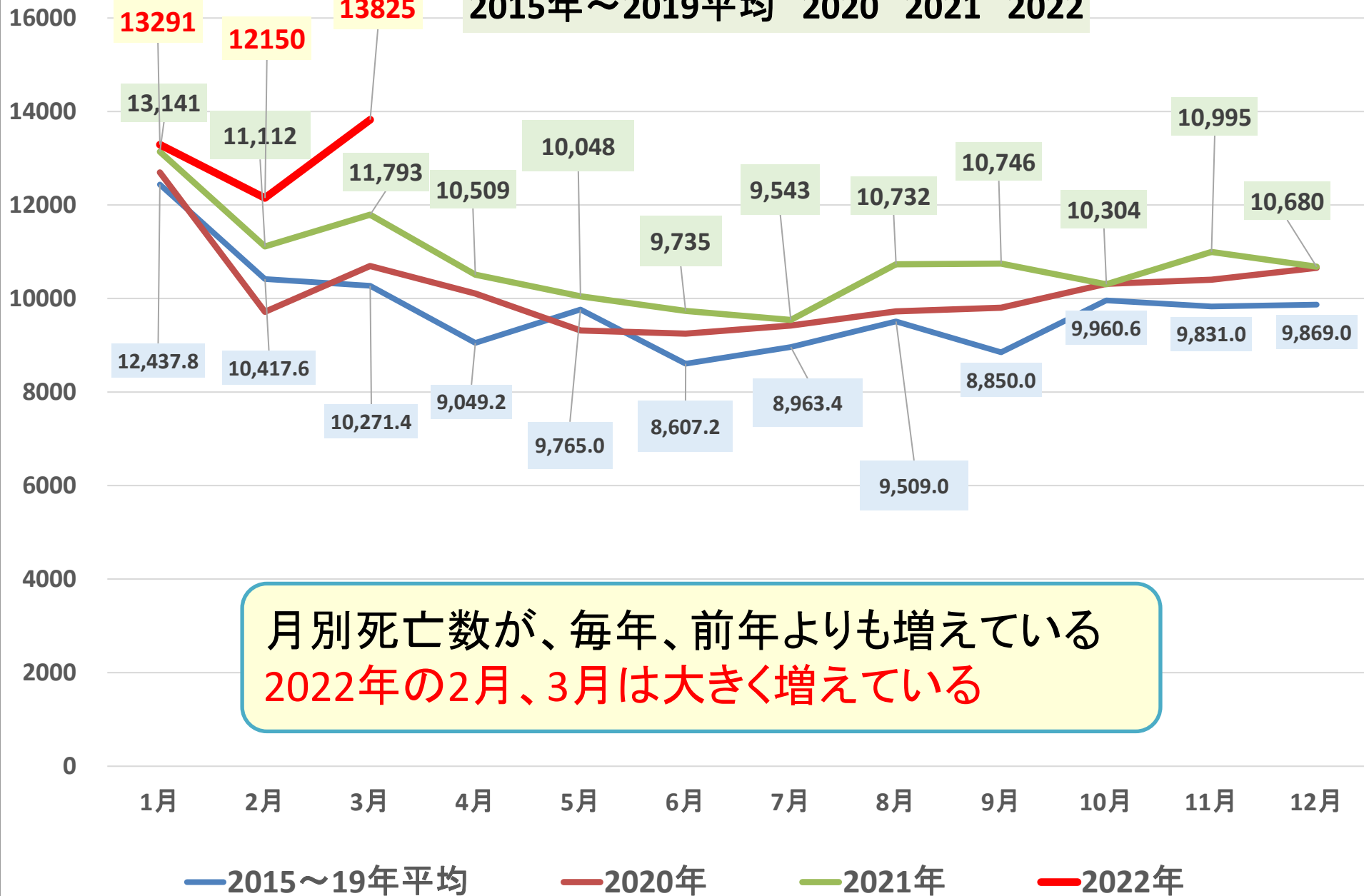
2020年1月～2022年2月

- 2020年4月以降、毎月、**超過死亡**。内訳はコロナ死亡以外が大部分
- 2021年4月以降、**超過死亡“率”**（2015～2019年の平均値に対する割合）が6.6%以上で推移
- 2022年2月に**超過死亡**、**超過死亡率**が急増



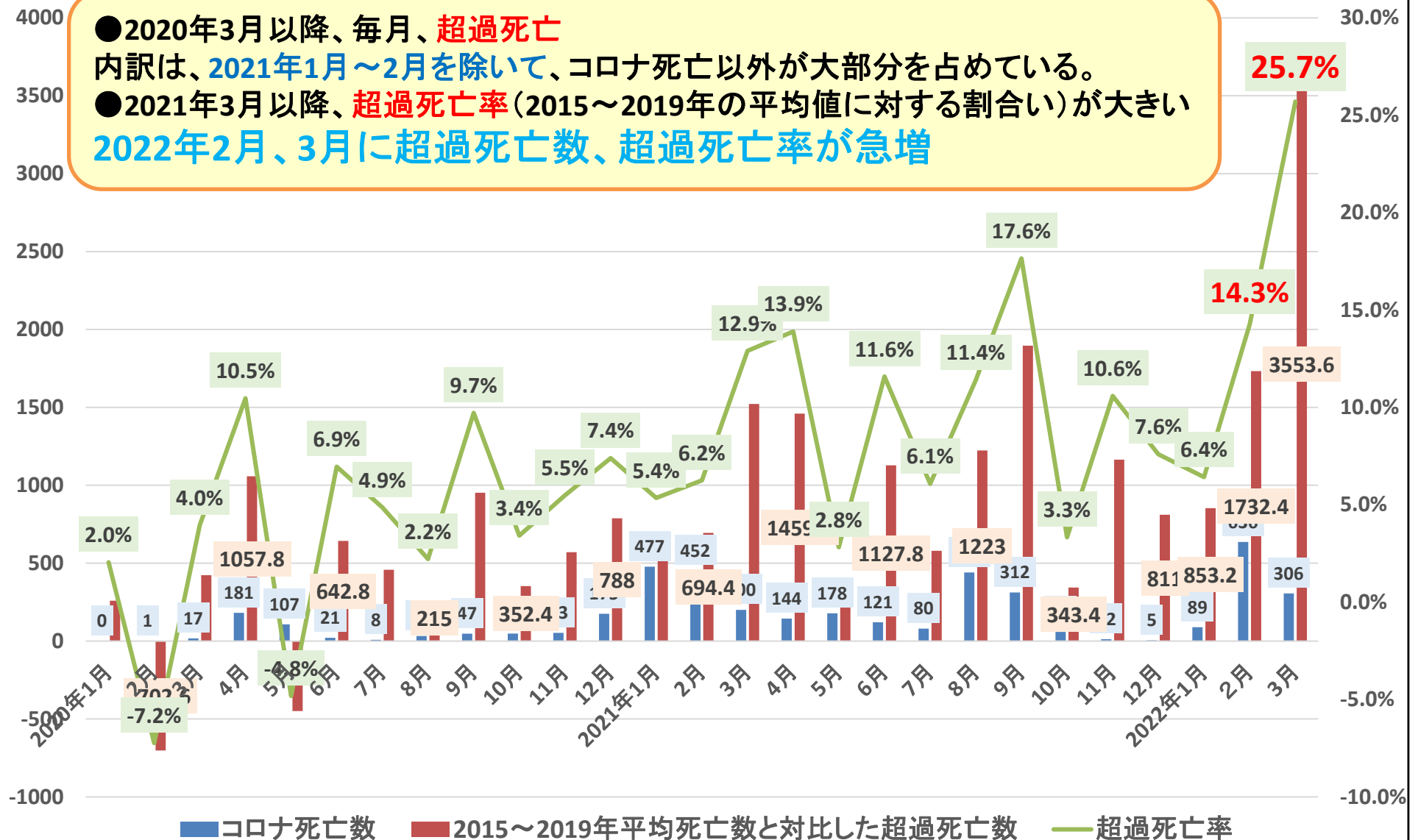
東京都の月別死亡数

2015年～2019年平均 2020年 2021年 2022年



東京都 コロナ死亡数 超過死亡数 超過死亡率 月別推移 2020年1月~2022年3月

●2020年3月以降、毎月、**超過死亡**
内訳は、**2021年1月~2月を除いて**、コロナ死亡以外が大部分を占めている。
●2021年3月以降、**超過死亡率**（2015~2019年の平均値に対する割合）が大きい
2022年2月、3月に超過死亡数、超過死亡率が急増



「月別死亡数」の推移からわかること

- 全国**では**2021年4月以降、1割前後の超過死があった**
（月別死亡数が2015年～2019年の平均死亡数を1割前後上回っていた）。**2022年2月の超過死亡率は16.1%であった。**
- 東京都**では**2021年3月以降、超過死亡率が6.1～17.6%となっている**（月別死亡数が2015年～2019年の平均死亡数を6.1～17.6%上回っていた）
- 超過死亡のうち「コロナ死亡」が占める割合はとても少ない**（2021年1月と2月を除く）
- 超過死亡率が高いことは深刻な事態。原因究明と対策が求められている**

**コロナ流行下
子どもたちが重大な影響を被っていた**

「コロナ禍が子どもの脳と心に及ぼす影響」

明和政子教授（京都大学教育学科研究科）**の指摘が重要**

「コロナ禍が子どもの脳と心に及ぼす影響」 （時事通信2022/1/31）

<https://www.jiji.com/jc/v4?id=2110myowa0001>

「コロナ禍におけるマスク着用と子どもの育ち」

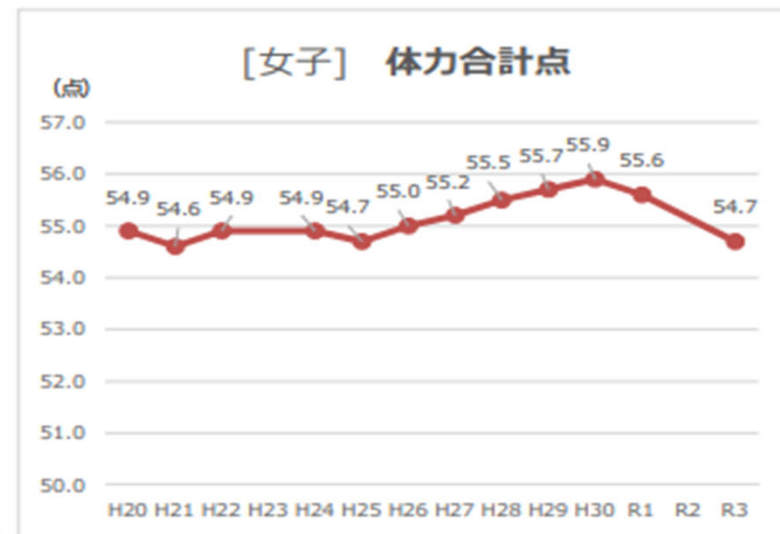
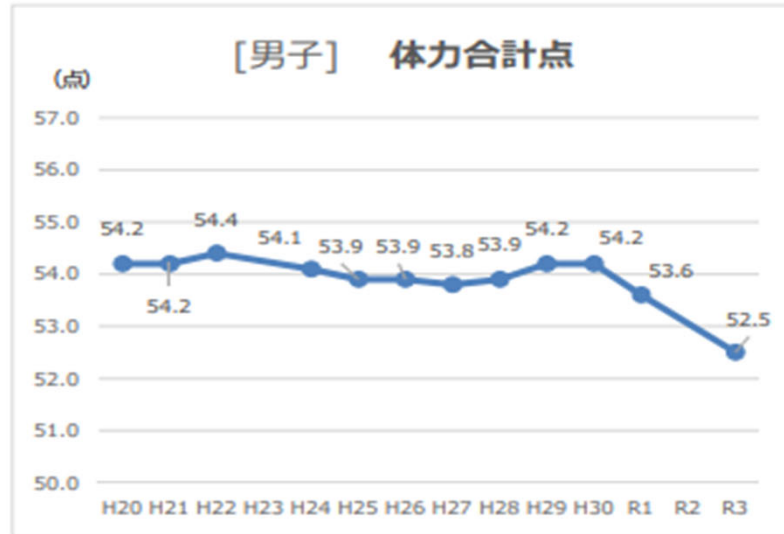
<https://www.harenohi-hoikuen.com/2021/07/2012/>

など

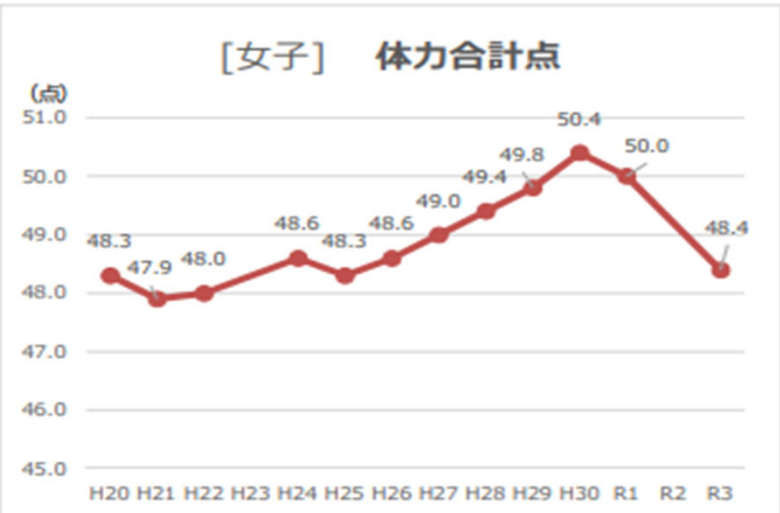
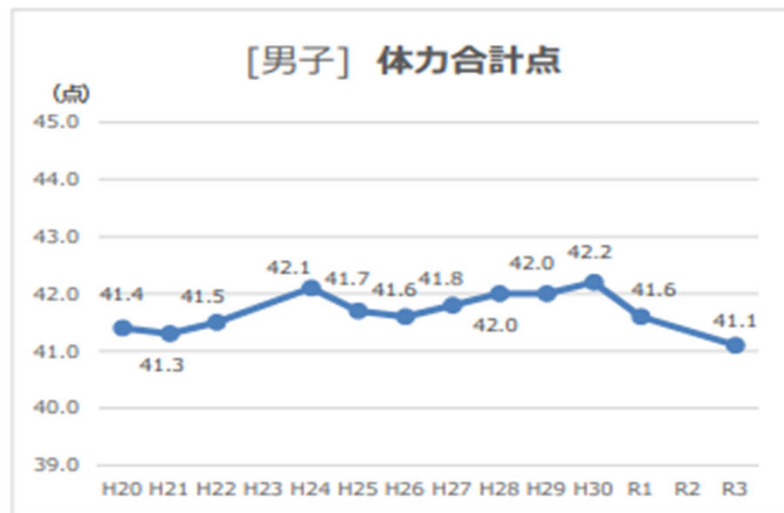
子どもの体力・運動能力が著しく低下（１）

「令和３年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果（概要）について」令和3年12月スポーツ庁

（小学生）

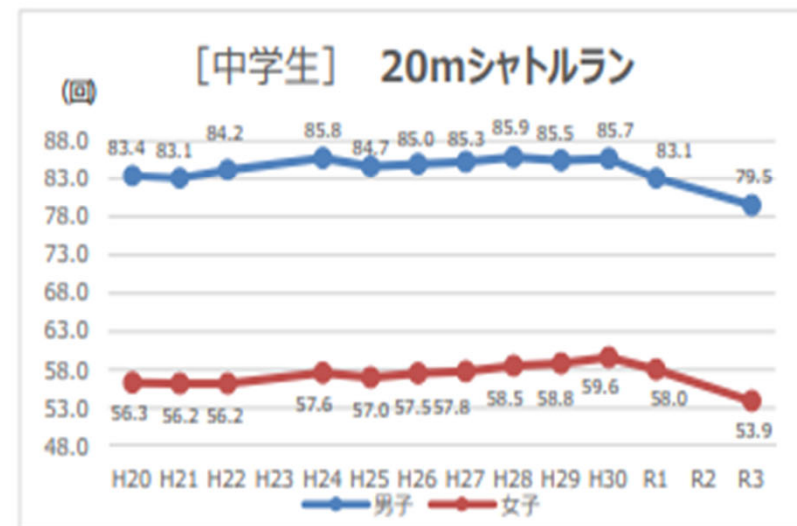
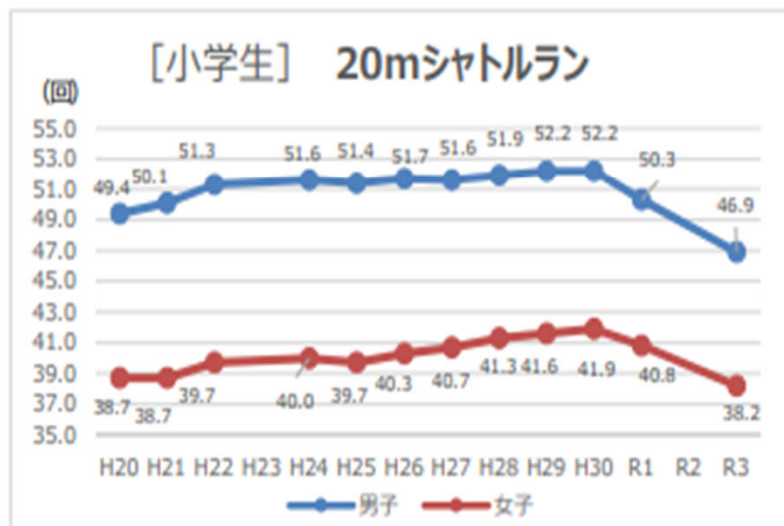
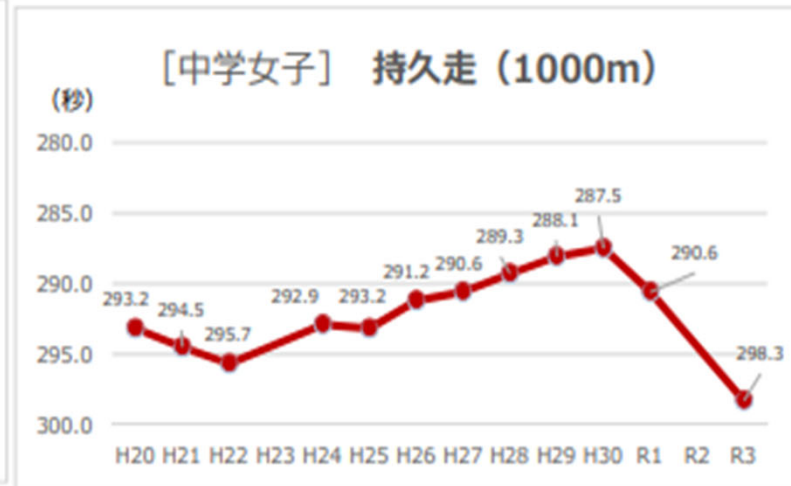
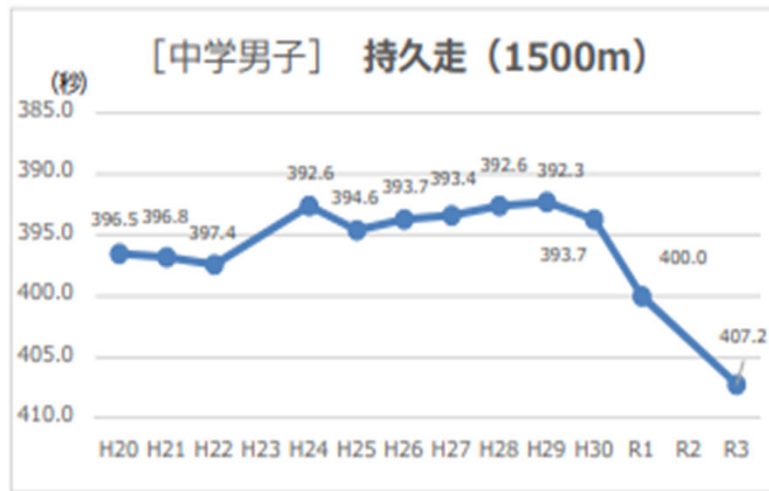


（中学生）



子どもの体力・運動能力が著しく低下（2）

「令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果（概要）について」令和3年12月スポーツ庁

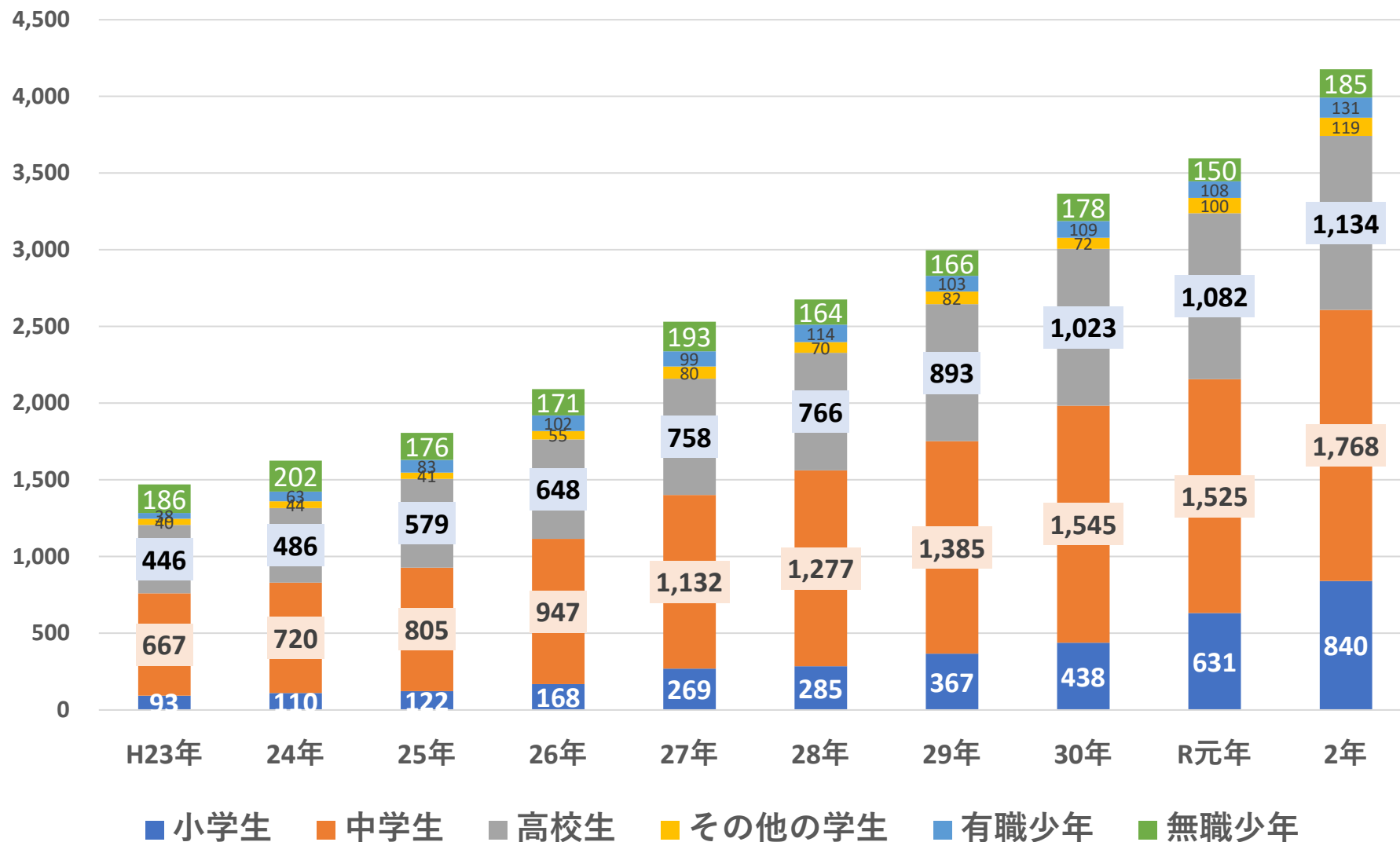


影響が残らないか、大変に懸念される

家庭内暴力の増加傾向がいっそう強まった

家庭内暴力事案の学職別推移

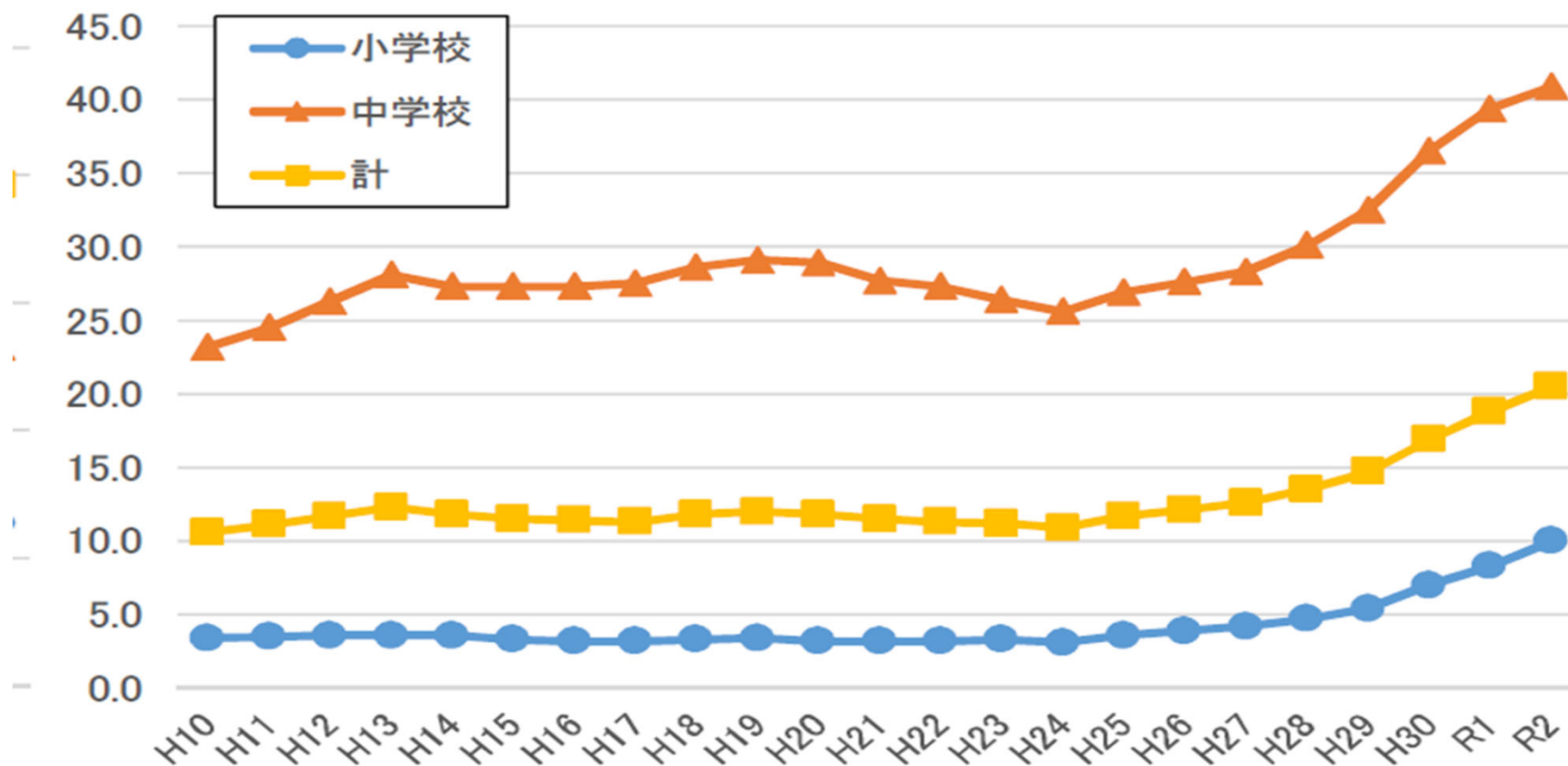
警察庁；令和2年における少年の補導及び保護の概況より



令和2年 コロナ流行下、オンライン授業の時期もあったが、 不登校児童生徒数は増加した

(人)

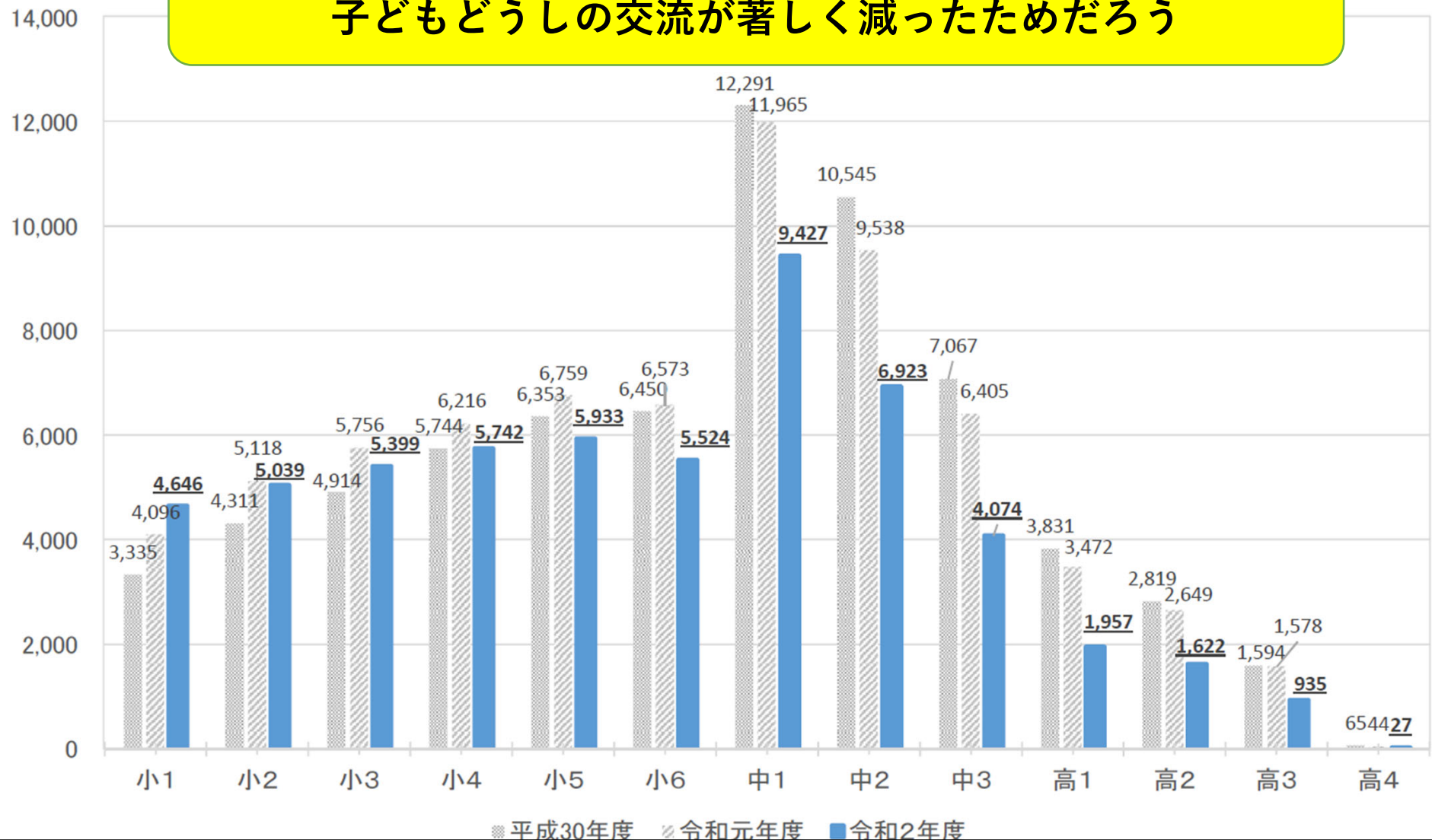
不登校児童生徒数の推移
(1,000人当たりの不登校児童生徒数)



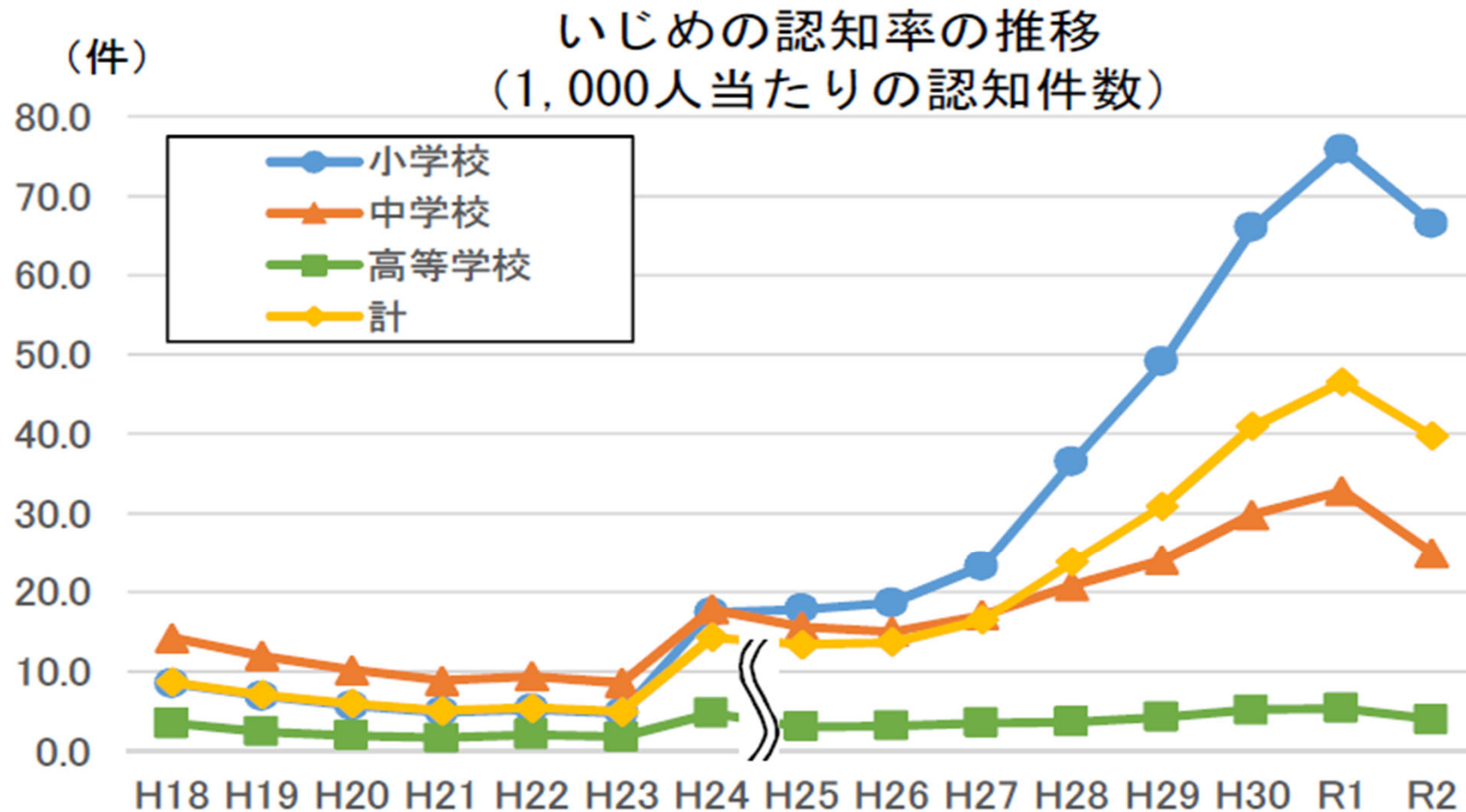
子どもの暴力行為の状況

学年別加害児童生徒数

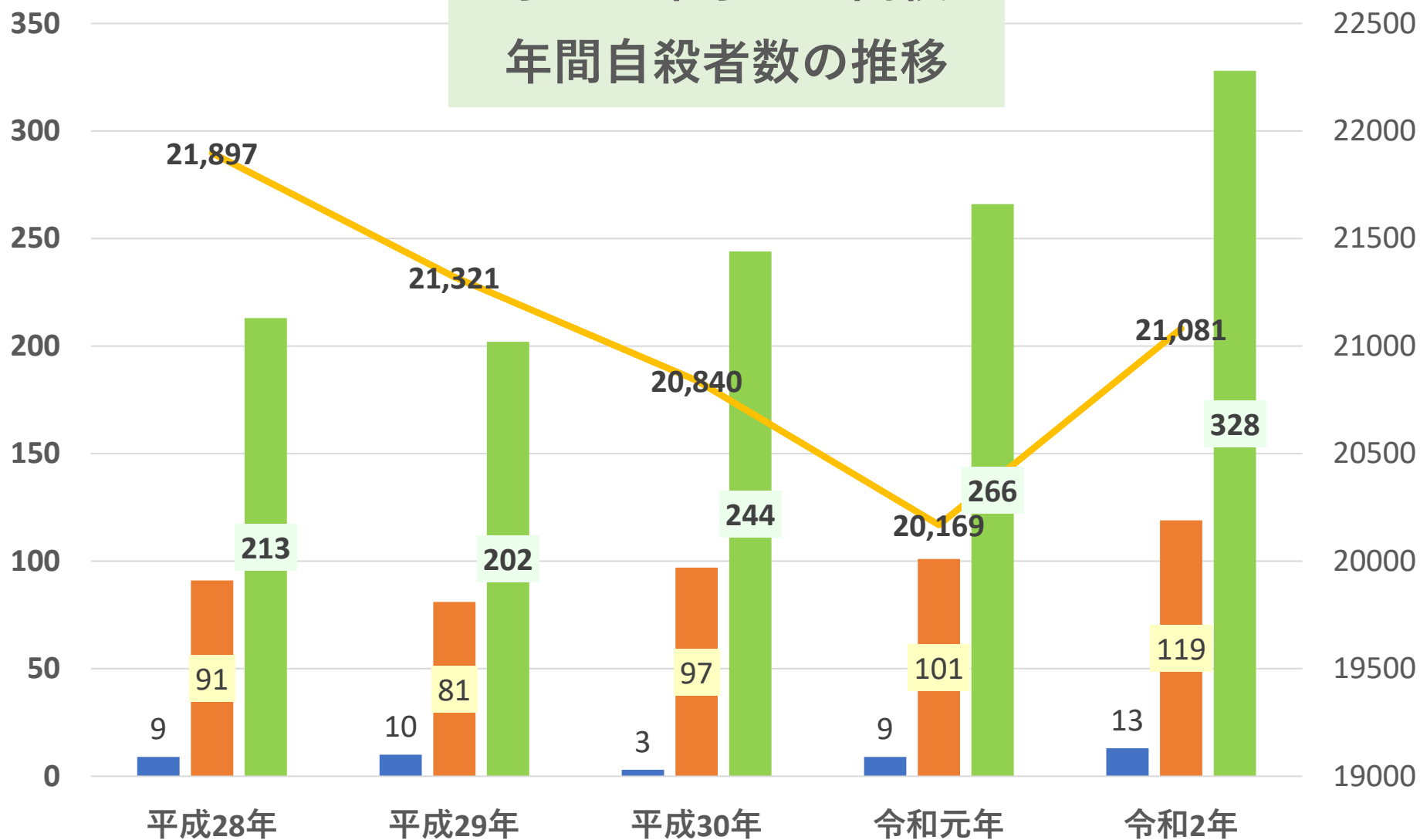
コロナ流行下、子どもの暴力行為が顕著に減った
子どもどうしの交流が著しく減ったためだろう



令和2年 コロナ流行下、いじめ認知率は急減 人流抑制とオンライン授業で 子どもたちの交流が著しく減ったためだろう



小学生 中学生 高校生
年間自殺者数の推移



■小学生 ■中学生 ■高校生 —全年齢

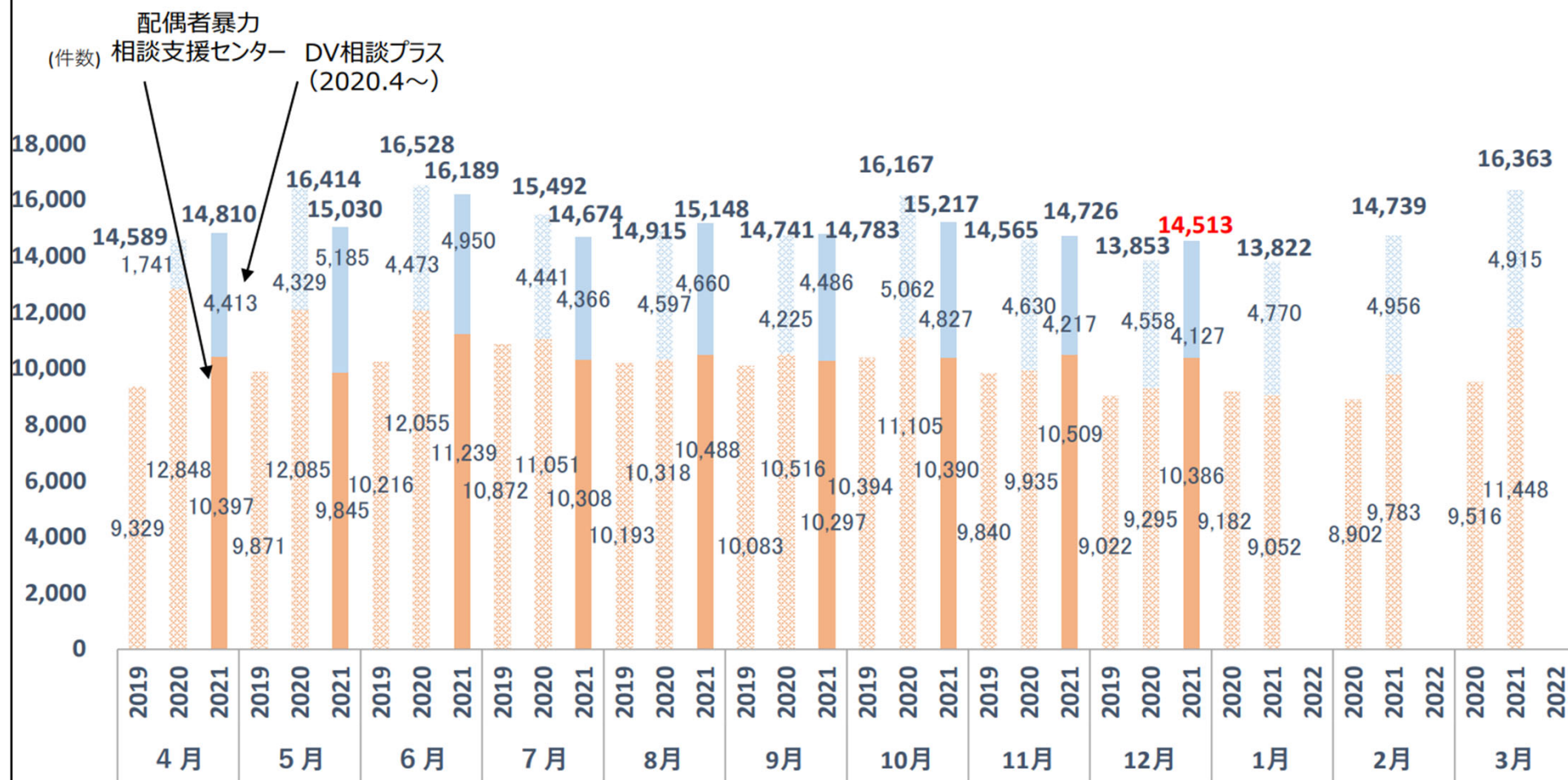
- 私たちは、ひたすらコロナ感染者数を減らすことを目標に頑張ってきた
- しかし、そのことが子どもたちに重大な影響を及ぼしかねないことを考えていなかった
- 子どもたちが蒙った影響を解消する取り組みが急がれるのではないか

家庭の中で起きていたこと

DV相談件数の推移

(内閣府男女共同参画局)

2020年度の相談件数は 182,188件、2019年度の約1.5倍
2021年度の相談件数は、2020年度とほぼ同数

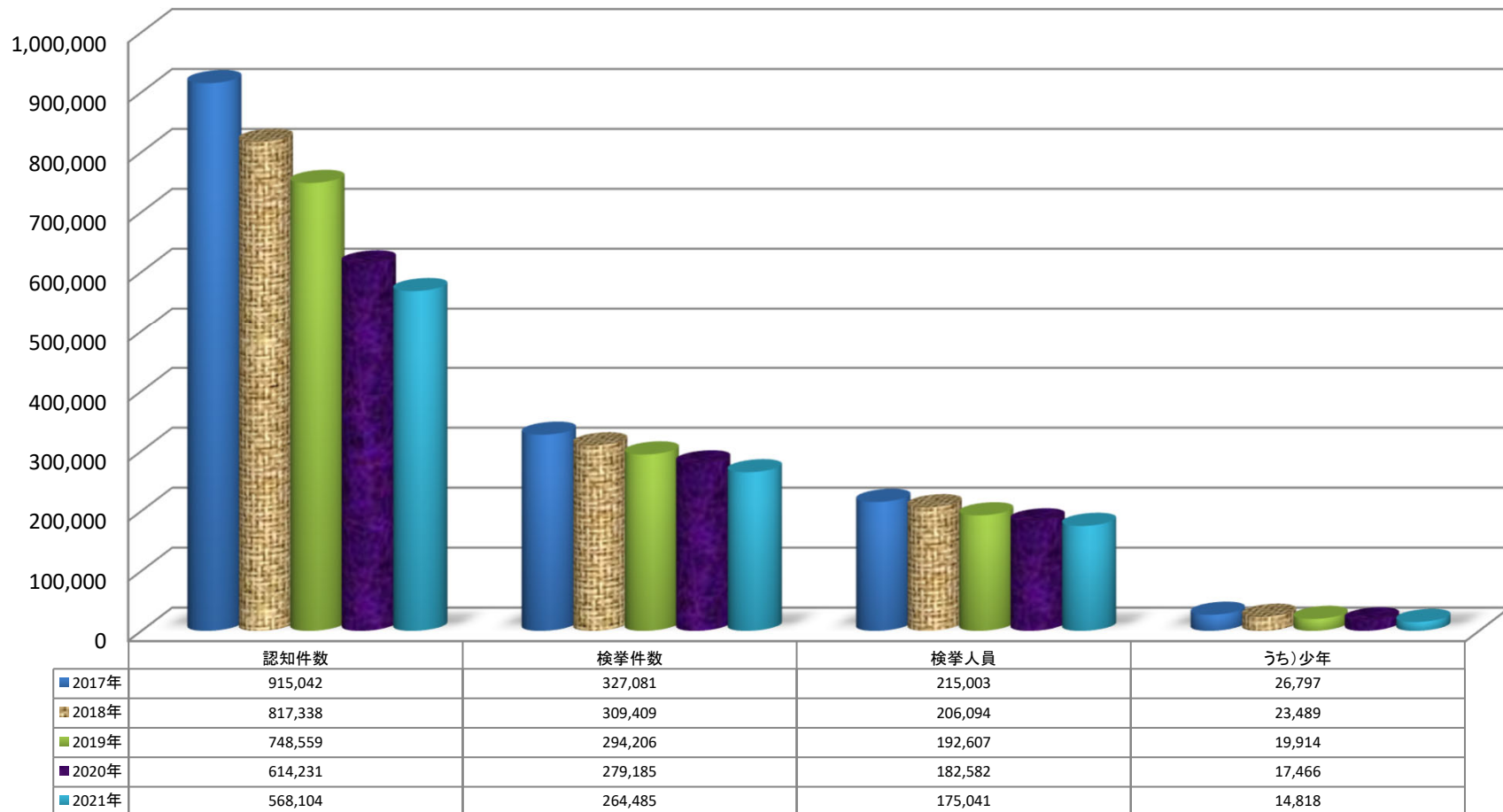


犯罪統計

- 刑法犯総認知件数は、2020年では戦後最少だったが、2021年はさらに8.7%減少
- そのうち凶悪犯は、2020年は増加、2021年はコロナ流行前とほぼ同じ

刑 法 犯 総 数

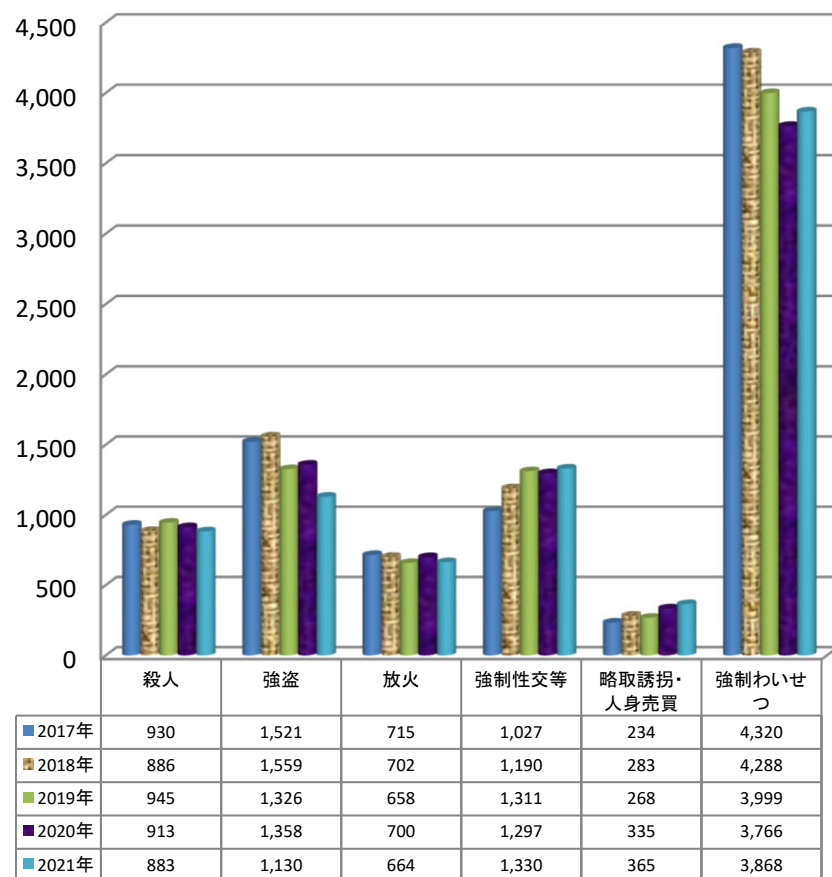
【各年1-12月】



重要犯罪検挙件数の推移／成人と少年

成人の殺人件数は変化せず。強盗は減少。強制性交等と略取誘拐・人身売買は増加
少年の強制わいせつは減少

重要犯罪検挙件数【各年1-12月】



重要犯罪検挙人員(少年)【各年1-12月】

